

# 『白ねぎの機械化一貫体系による産地構造の強化』

< 大規模白ねぎ経営へのチャレンジ >

【産地名】JA遠州中央「磐田の白ねぎ」（静岡県）



産地データ（H15年）

対象品目名	白ねぎ
産地の名称	磐田の白ねぎ
作付面積	87ha
主要作付品種	夏扇2号、秀逸、龍翔、春扇、吉蔵
作付農家戸数	585戸
出荷(販売)量	2,292t/年間
販売額	834百万円/年間
出荷(販売)先	京阪神(大阪・京都・奈良)、 中京(名古屋・岐阜)、北陸 (富山・石川・福井)各市場

## 1. 産地の概要と特徴及び課題

白ねぎは鍋料理や焼き鳥などに欠かせない食材として安定した需要がある野菜の一つです。JA遠州中央の白ねぎは天竜川左岸の1市3町1村（磐田市、豊田町、竜洋町、福田町、豊岡村）の沖積土地帯で栽培され、昭和42年度には野菜指定産地となりました。当産地は秋冬ねぎの産地として特に関西市場で高く評価されてきましたが、近年は中国産輸入ネギの急増による価格低下や生産者の高齢化が栽培面積の減少に拍車をかけ、年々10ha近く面積が減少していました。また、白ねぎは播種から収穫までの栽培期間が8～9か月と長く、10a当り労働時間も313時間と手間がかかる野菜で、特に育苗・定植・収穫・調製作業の手間が規模拡大の阻害要因となっていました。

対象品目の作型（生育ステージ）

作型	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
初夏							□				○	△
夏秋		○	△						□			
秋冬 年内			○	△						□		
秋冬 年明	□					○	△					□
春			□				○	△				

## 2. 産地改革計画の概要

策定対象品目名	白ねぎ	該町	磐田市、豊田町、竜洋町、福田町、豊岡村
策定年月	平成14年3月14日	当村	
策定主体名	J A 遠州中央	市名	

### (1) 計画の全体概要(要旨)

J A 遠州中央では低コスト化タイプ、高付加価値タイプの2つの戦略タイプに取り組んでいます。低コスト化タイプでは、白ねぎ栽培の過程で、多くの労力と時間を費やす「育苗」「定植」「掘取り」「調製・選別」についてJ A 委託による機械化一貫体系を導入することにより労働時間の短縮、生産規模の拡大を図り、人件費を含めた生産コストの37%削減を目指しています。

また、高付加価値タイプではフェロモントラップによる発生予察の徹底による農薬量削減や、J A 栽培カレンダーを利用した育苗、掘り取り注文体制を整備し、適期収穫による鮮度向上を図っています。これらの取り組みにより大規模な担い手を育成し、より安全で品質の高いねぎ作りを行い輸入ねぎに対抗できる産地作りを目指しています。

### (2) 具体的な目標

#### 低コスト化タイプ

労働時間の削減(機械化一貫体系)	313.5hr/10a	61hr/10a
生産規模の拡大(機械化一貫体系)	44a	261a/戸

#### 高付加価値化タイプ

低農薬栽培の取組み(発生予察取組み面積)	0ha	30ha
適期収穫の徹底(栽培カレンダー利用セル苗注文面積)	0ha	30ha

## 3. 産地改革計画の実行状況とその成果

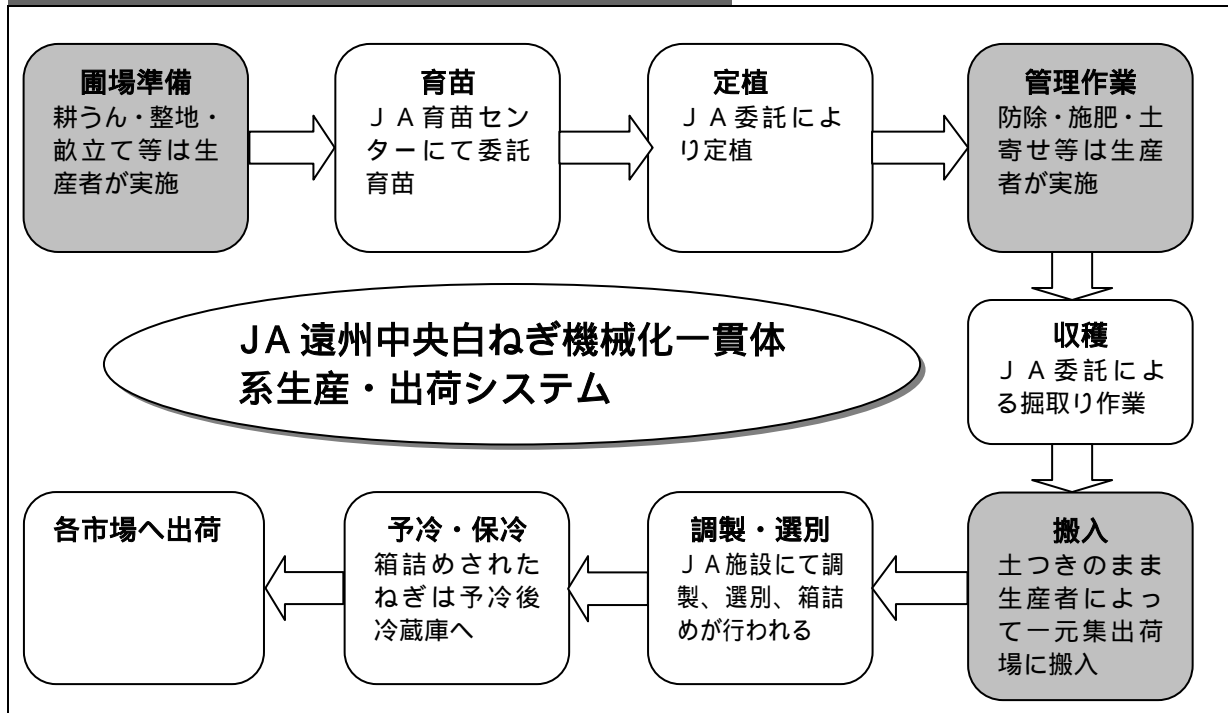
低コスト化タイプの取組みについては、平成13年度農業生産総合対策事業で導入した白ねぎ調製・選別ライン及び平成14年度輸入急増農産物対応特別対策事業で導入した白ねぎ育苗施設、定植機、掘取機の活用により、J A にそれらの作業を委託すれば、生産者は圃場準備や防除、施肥、土寄せ等の管理及び出荷作業を行うだけで良く、大幅な省力化が可能になりました。

J A の施設、機械等の利用により省力化を図り規模拡大する生産者の作付面積は増加し、平均面積が44aから141aへと拡大しました。また、2haクラスの大規模経営への道が拓けたことにより、生産者から大規模化のための研究会設立の気運が生まれ、平成16年6月から大規模化を志向する生産者による「白葱経営研究会」が発足し、月1回のペースで大規模化のための栽培、経営の勉強会が開催されています。

高付加価値タイプとしてはネギの重要害虫の一つであるシロイチモジヨトウ対策として生産者各自がフェロモントラップ設置による発生予察に取り組んでいます。現在では目標面積の63%で利用が進み、農薬散布量の低減に繋がっています。

また、栽培カレンダーに基づいてJ A 育苗施設で生産されたセル苗や掘取機を計画的に利用することにより、今まで生産者によって幅のあった栽培期間を標準化し、適期収穫が図られることになりました。特にL、2Lの階級においては適期収穫と併せフィルム包装を行なうことにより、清潔感や鮮度保持効果が向上し、市場からの一定の評価を得ています。

### 構造改革後の生産・出荷・販売システム概念図



### 産地改革に係る補助事業等の実施状況（平成14年度以降）

#### 国庫補助事業

年度	事業名	事業主体名	事業内容	事業費	国庫補助金
13	生産振興総合対策事業	JA 遠州中央	集出荷貯蔵施設8,597㎡ 白ねぎ自動調製選別施設 (年間利用面積54ha) 真空予冷施設・自動冷蔵倉庫	(百万円) 1,667	(百万円) 690
14	輸入急増農産物対応特別対策事業	JA 遠州中央	白ねぎ播種プラント499㎡ 共同育苗ハウス3,312㎡ (50ha) 定植機6台(50ha) 掘取機6台(38ha)	239	105

#### 4. 今後の課題とその取組方向

栽培技術としてセル苗を利用した栽培は気象条件、排水条件、病害虫の影響を受けやすいため、梅雨時期の天候に強い品種の選定、浅植え、施肥体系の検討等セル苗利用栽培技術の確立が必要です。

また、産地の維持のためには小規模高齢者が大部分の面積を占める産地構造を2ha以上の大規模生産者が一定のシェアを占めるような構造に変えていく必要があります。そのため、先に述べた経営研究会活動の充実や、会員の増加を図り、担い手育成に重点的に取り組めます。

さらに、技術確立、担い手育成と並行して農地の担い手への集積も重要な課題です。今後は高齢化の進展に伴ない、より一層農地の遊休化が問題となってくることが予想されるため、遊休農地となる前に担い手が活用して経営規模拡大を図れるような仕組みづくりが必要です。これらの推進により一層の低コスト化と高付加価値化を図り、白ねぎ

産地の生き残りを目指します。

## 産地改革・取組フォト



従来の自家育苗・定植に変わり JA への育苗・定植作業の委託により省力化



収穫は JA への委託により省力化され、適期収穫が可能



収穫されたねぎは土つきのまま集出荷場へ。自動調製機の利用で従来の重労働から解放。



自動で選別されたねぎのうち 2L, L はフィルム包装され市場評価も上々。

### < 県・問い合わせ先 >

静岡県中遠農林事務所生産振興部産地育成課

担当 大村 博之

住所：静岡県磐田市見付3599 - 4

TEL：0538 - 37 - 2282

### < 農協・問い合わせ先 >

遠州中央農協産地振興部営農指導課

担当 鈴木 竜彦

住所：静岡県磐田郡豊田町加茂628 - 1

TEL：0538 - 36 - 7248

